



大久保小だより



平成29年8月29日第6号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関21

048(854)7636

男子153名女子123名計276名

学校教育目標 **かいっぱい かしく やさしく たくましく**
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

～ ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども ～

校長 相川 光彦

子どもたちの元気な声が大久保小に戻ってきました。夏休み中に大きな事故や病気もなく笑顔いっぱいに夏休みの話などをしている子どもたちの姿に喜びを感じています。

各地区の夏祭りや盆踊りなど地域の行事にもたくさん子どもたちが参加させていただきました。ありがとうございます。お囃子や太鼓、神輿など伝統芸能に触れることができるのは、大久保地区の子どもたちの特権です。絶やすことなく継続しておられる地域の方々に心より感謝します。

「価値観の多様化」や「個人化の時代」という言葉を聞くようになりました。一人ひとりの価値観を大切にできる時代になったことは、とても素晴らしいと思います。しかし、自分の価値観だけが、唯一絶対と考えてしまう人が増えてきたことは、悲しいことです。

2030年には、今ある職業の65%がなくなってしまうと言われていています。ゲームも通信手段もバーチャルなものになり始め、人と直接かかわらない時代になっていますが、実は、今まで以上に人との繋がりやコミュニケーションが重要になる時代だと考えています。多様な世代、職種の人とのかかわりができるようになることが、求められています。

そんな中、大久保小には、5つの地区と6つの自治会があります。夏祭りでは、笛や太鼓のお囃子、盆踊りには、やぐらに太鼓など本当に昔ながらの行事です。4つの地区には、獅子舞も残っており、その保存や伝承に地域の方々が中心となって、子どもたちにも教えてくれています。昨年のお正月遊びの会では、子どもたちのお囃子の中、白鯂の獅子舞を披露していただきました。今年は、五関の獅子舞が見られます。毎年交代で、塚本、宿と続けていきたいと考えています。お囃子も、地区ごとにそれぞれ特徴があるので、伝承を絶やすことなく伝えていくことがとても重要なのだと実感しています。これこそが、世代や職種を越えたかかわりなのではないでしょうか。祭りでは、小中学生が、大人と一緒に笛や太鼓に合わせています。世代を超えた交流ができる大久保小学校区は、なんて素晴らしいのでしょうか。

自分が、外国で暮らしてみても改めて感じたことは、日本のこと(文化や伝統)をあまりにも知らないということです。言葉が分からないのではなく、実体験を基にして話をするのでできないもどかしさを感じたのを覚えています。獅子舞やお神輿、盆踊りなど実際に経験できる子どもは、あまり多くはいません。この経験が、とても大切で受け継いでいかなければならない伝統なのです。そして、豊かな表現力のもとになり、ふるさとを愛する土台となるのです。

今日から、2学期が始まりました。長い夏休みで、生活のリズムが乱れてしまった子もいると思いますが、日々の規則正しい生活を心がけましょう。

いじめ防止基本方針を改訂しました。子どもたちの心と体の健康を注意深く見守り、郷土、母校である大久保小学校を誇りに想える学校にしたいと考えています。

これからも、「明日も学校に行きたい」と思える大久保小のために私たち教職員も保護者と力を合わせて、『やればできる』を合言葉に子どもたちのよさを引き出し、「ほめて伸ばす教育」を推進して参ります。よろしくお願ひします。